

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600092		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 島		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町中島287-1		
自己評価作成日	令和6年9月30日	評価結果市町村受理日	令和7年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2192600092-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられる静かな環境で、9名の利用者様が穏やかな関係を築いて生活されています。ホーム内は花々や絵画を飾り、風通りのよい空間となっており利用者様は自由にくつろいだり、談笑され過ごされています。個々の生活習慣を大切にされた支援に努め、ご家族様、利用者様との信頼関係を築いています。また、協力医療機関と連携をして、重度化した方や看取りケアまで職員一丸となり支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多くの樹木や草花の中に在るドリームハウスのような印象の事業所は、利用者個々に沿ったケアを行なっており、利用者が安心して暮らしている。運営に関しての意見等は、職員から主任、主任から管理者、管理者から法人合同会議で話し合う形があり、皆が納得のいく運営を行なっている。職員は有資格者が多く介護の専門職として さらにキャリアアップを目指し努力している。地域や家族との繋がりも強く、食材の差し入れも多い。味付けや提供方法の工夫をした美味しい食事は利用者により好評である。自己評価作成には職員も参加し、全員で評価の意味を考えるなど、真摯に利用者支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は名札の裏や施設内の目につく場所に掲示、意識して業務を行っている。全体会議や連絡事項でも理念を念頭に置き、意識の統一をしている。また、年度始めに研修を行い、理解を深めている。	職員同士で勉強会を行い、支援について話し合いながら、理念の確認を重ねている。ミャンマー出身の職員がおり、具体的なケアを通して、ホーム全体で改めて理念について考え、振り返りながら実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常生活で挨拶を交わしたり、施設周辺の清掃をする際に交流している。また、公民館の福祉フェアで作品を出し、より地域の方に知ってもらう機会に努めている。	利用者が作成した折り紙作品を、公民館の福祉フェアで展示している。地域行事の防災活動にも参加している。コロナ感染症拡大前に行っていた小学生の課外授業としての訪問は、まだ再開できていない。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、行政、区長、民生員、ご家族代表の方に活動やヒヤリハット等を報告している。また、意見交換で地域の現状や行政の取り組み、要望を生声として傾聴し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議資料として、行事・活動報告書は、写真と併せて利用者の様子がよく解るようにしている。勉強会やヒヤリハット報告については、出席者からの質問や意見に回答しながら、行政や関係者から地域の情報を得ている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、地域の方や、他施設の方や福祉課の方との交流を深めている。日頃より行政と関係作りにも努め相談や意見交換を行い連携を保っている。	地域ケア会議に出席し、地域の介護に関わる人や施設と共に協力関係を築いている。会議以外でも交流機会が多く、事業所の様子を伝えたり、外国人の採用について相談しながら連携を図っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修で理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的に身体拘束適正化委員会に参加し、困難な方の事例検討を行い拘束を防ぐ対策を話し合い、ケアに活かしている。	同法人事業所の役員、管理者が参加して合同で身体拘束適正化委員会を開催している。身体拘束をしないケアを実践するために、利用者の毎日のバイタル測定、食事の見守り、不穏になる前に「手当て」をすることの大切さを話し合っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員の悩みやストレスを気軽に話せる雰囲気を作り、思いの把握に努めている。また、職員研修で学び理解を深めている。委員会にも参加し意見交換をしたり、事例検討を行い防止に努めている。	虐待防止委員会を開催し、研修でも学びながら、事例検討会の中で全職員で確認している。管理者は、職員の行動や言葉遣いからストレスを抱えていないか、日常のケアの中で雑談を交えながら、解消できるようサポートを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の概要を理解して、必要であればご家族の相談に応じている。活用について職員と更なる理解を深めたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を十分にとり、丁寧に説明するようにしている。不安や疑問がなく理解して頂けるように説明し、質問疑問も解消できるようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でご家族と話し合うことを大切にしている。ケアプランの意向書では要望、意見を記入していただきケアに活かしている。定期的にお送りするお便りは写真付きで分かりやすく日々の様子をお伝えして好評を得ている。	コロナ禍では、面会制限を設けざるを得なかったが、現在、電話や手紙、戸外やデッキでの面会は可能としている。家族に送る個別の「くらしのお便り」では、利用者の写真と受診状況や食事の摂取量など、細かく記載し情報を提供している。	現在も、コロナ感染予防対策は継続している。面会は、時間や人数制限など、家族の要望にも出来るだけ応じながら、利用者と家族がふれ合える工夫に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を行い全職員から意見を聞いている。そこででた意見は管理者合同会議で代表者と共に検討しながら運営に反映させている。また、職員と代表者、管理者の距離が近くいつでも相談できる関係作りに努めている。	管理者は、毎日、職員に声掛けし意見を聞いている。また、業務報告書にも記録を残した上で、代表や各事業所の管理者との会議で話し合っている。開設以来、離職者は皆無であり、風通しの良い関係が築かれている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	幅広い年齢層の職員が働いているため、時間、希望休の配慮をしている。各自が責任と意欲を持って働けるよう実績に合わせ昇給がある。また、年間を通して研修計画を作り知識や技術の向上に努めている。	代表も頻繁に訪れ、職員の声を聴き取りながら、個別の業務内容や悩みを把握している。休憩時間は、現場から離れて休憩することが出来る。管理者は、日々、職場環境の整備と共に、職員のモチベーションを高められるようサポートしており、開設以来、離職者がいない。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体のケアが向上できるように、年間研修計画を立て学んでいる。また、外部研修にも積極的に参加している。日々が勉強の連続であり、その都度話し合いながらケアを行っている。	長く勤務している職員も、外国人職員と一緒に働くことで、これまでの知識やスキルを再確認する事が出来ている。有資格者も多いが、さらに研修を重ねながら、質の高い介護技術を身に付けられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	揖斐川町職員連絡会という組織があるため、お互いの施設での取組や研修会を行い、同業者と交流する機会がある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様とたくさん話すことを大切にして、思うような暮らしができるように支援している。また、利用者様同士が仲良くできるよう交流していただき関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをとったり、日常的には利用者様の表情や会話の中からできることや好きなことを把握している。野菜の下ごしらえ、清掃、洗濯物たたみ等、一人ひとりのこれまでの生活歴と希望を活かしながら生きがいに繋げている。	全職員が、常に利用者に寄り添う支援を心がけている。表情や会話の様子を観察し、思いや意向を把握するよう努めている。職員個々が気づいた利用者の思いや希望を連絡ノートに書き記し、情報を共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや介護記録、様子観察のもとに、ご家族や専門職の意見を取り入れ、病気のある方は医師からの指示を介護計画に加えている。また、身体介護だけでなく、精神面にも配慮している。	介護計画の更新時期に、家族案内を送付し意見や要望を聞いている。面会時や電話でも希望を聞いている。利用者がリハビリを受けている接骨医の意見も取り入れながら、心穏やかに生活できる介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事を介護記録簿に記入し、モニタリングも行っている。体調管理表を付けたり、ノートやホワイトボードを活用して職員間で情報共有がスムーズに行えるように工夫し、変化があれば迅速に対応できるように努めている。	利用者の様子は、介護記録簿、申し送りノート、ホワイトボードに記入し、さらに口頭でも伝え合い、全職員が目標達成に向けて、日々のチェックを怠らないよう努めている。利用者の状態を皆で把握し話し合いながら、次の目標に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに応えられるようにその都度検討し柔軟に対応できるように努めている。例えば、体を動かしたい利用者様に接骨院の先生によるリハビリ体操や訪問理容等ニーズに合わせて取り入れている。	利用者は、接骨医によるリハビリ体操を受けることができ、利用者の状態に合わせて支援を行っている。利用者が必要な生活用品や嗜好品は、家族と相談しながら、購入代行を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパー、診療所、消防署や農協など地域資源を活用し、近所の方との日常の関りを大切にしている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の希望でかかりつけ医を決めている。ご家族の協力を得て地元のかかりつけ医を選択される方もいらっしゃる。当ホームのかかりつけ医は月2回の往診を行い、健康管理をしている。	月2回、協力医の訪問診療を受け、入居前のかかりつけ医を継続している利用者は、家族同行で受診している。法人内の看護師が利用者の日常の健康管理を行い、急変時には、職員が医療機関と連携し、安心して受診できるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーを提供し、安心して治療ができるようにしている。特に認知症状については詳しく説明している。退院時にはカンファレンスに参加したり、協力医に相談したりと早期に受け入れができるよう努めている。	緊急時は、かかりつけ医と相談の上 総合病院への入院手続きを行なっている。入院前の利用者情報を提供し、退院までの間、協働しながら利用者が安心できるよう、早期退院に向けて、受け入れ体制も整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に指針を説明し理解を得ている。実際に重度化や終末期を迎えた時は、医師とともにご家族と話し合い、希望にそった最期を迎えられるようにチームで方向性を確認している。医師とは24時間体制で連携し取り組んでいる。	利用者の状態変化に応じて、早い段階から家族と話し合い、支援方針の再確認をしている。家族や医師と連携しながら、職員それぞれの気づきを全員で共有し、利用者・家族と向き合い、ホーム全体で終末期の支援に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて適切な対応ができるよう職員研修を行っている。マニュアルや連絡簿を掲示して確認を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練を消防署の指導で実施している。火災、地震での対応、水害での上層移動を確認した。備蓄も計画的に準備している。今後も地域との防災訓練による関係、協力体制を強化したい。	年2回の災害訓練を実施している。様々な災害に対応できるよう、運営推進会議や地域との会議で話し合い、BCPも作成済みである。備蓄は1週間分程度の量を確保している。現在、自家発電の導入について検討中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や習慣を大切にして、日常的なプライバシー（着替え、入浴、排泄時等）に気を付けている。利用者様に寄り添い、言葉使いは特に初心に返って対応している。	プライバシーの確保については、日常会話や支援方法の重点課題として取り上げ、研修を行っている。常に丁寧な対応に努め、馴れ合いの言葉遣いにならないよう気を付けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定を大切にしている。例えば、洋服を選ぶ、お茶の時間は好みの飲み物を選ぶ、活動への参加の有無など希望を聞いて支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であるが、決まり事を優先せずに利用者様が一日をどう過ごしたいかを大切にしている。散歩や体操、テレビを観ること、塗り絵、お話等、様子を見ながら見守っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年の夏は皆で畑を作り夏野菜を育てた。収穫から下ごしらえまで、手伝っていただき料理をすると大変喜ばれた。盛り付けも工夫して楽しみのある食事を提供している。	栄養士が献立を作成し、指導を受けながら、職員が三食手作りの食事を提供している。利用者と一緒にホットプレートで様々な料理やおやつ作りをしたり、盛り付けを工夫するなど、食べることを楽しめるよう支援している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下状態に合わせた食事を提供している。また、水分が一度に飲めない方には回数を増やし提供し、一日を通して必要量摂れるよう支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様に声かけし、自分では自分ではできない方は支援を行い、口腔内の清潔に努めている。また、義歯の具合もチェックして協力歯科医と連携している。	職員は、口腔ケアの大切さを理解し毎食後に利用者に声かけし、利用者の状態に合わせてケアを行っている。協力歯科医とは利用者の訴えや状況をみて、家族と相談しながら受診につなげている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分量と時間を見ながら声かけし、トイレ誘導によって失敗のないよう工夫している。入居時と変わらない排泄を維持できるように、職員皆で協力して支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週2回の入浴であるが、季節に合わせて回数を増やしたり、清拭を取り入れている。職員2人体制にて浴室の安全を重視し、手の届く所に物を置き、動きを少なくし、安全に安心して入浴を楽しんでいただけるよう支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や習慣に合わせて休息を取り入れたり、夜は早めに就寝できるように声をかけている。睡眠は健康にとって大事な要素であり、環境を整えて安心して休むことができるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時には職員が立ち合い、薬の用途や量を理解している。服用時は必ず名前を確認して、誤薬を防いでいる。薬の副作用や変化があった時は必ず主治医に報告している。	薬の管理は管理者が行っている。処方箋が変更になった場合は、職員が診察時に同席した上で看護師からの説明を受け、全職員で情報共有をしている。服薬時は、複数の職員で、手渡しから飲み終わりまでを確認し、口内の点検も行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下ごしらえや掃除の手伝い等、個々のできることを役割としている。季節の行事や誕生日会は特に楽しみにされている。また、花を花瓶に生けることを楽しみにされ、よい気分転換になっている。	ホームの畑で野菜を収穫したり、花が好きな利用者は花を摘んで花瓶に活けるなど、利用者の好きなことを見つけて役割として継続できるよう支援している。利用者の自信に繋がるよう感謝の気持ちを伝えながら支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただくために外へ出て風景や花、木々を見て楽しんでいただけるようにしている。デッキを利用して、お茶やランチを楽しまれたり、隣の揖斐の施設に行き、花々を鑑賞されている。	コロナ禍では、遠方への外出は難しく、隣の事業所の園庭の花々を眺めたり、天候を見ながら、デッキでの日光浴やお茶を楽しめるよう支援していた。現在は、利用者の希望を聞きながら、スーパーや近くの寺に出かけ、外出支援の範囲を拡げている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していることにより安心されている利用者様もいらっしゃる。買い物等頼まれた時は代行支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族様と話をしたり、ハガキなどのやり取りも希望に合わせ支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも安心してくつろいでいただけるよう、テーブル、ソファを設置して、清潔感を大切にしている。季節の花を利用者様に生けていただいたり、音楽を流したりと落ち着いて居心地よく生活できるよう工夫している。	共用空間は広く、清潔である。昔の電球のような暖色の温かみのある照明の中で音楽が流れ、いたるところに花や観葉植物が飾られている。花柄のカーテンやファブリックが家庭的であたたかい雰囲気がある。窓から花や木を眺めながら、居心地よく過ごすことが出来る環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気分によって庭のテラスで過ごされたり、フロアでテレビを観られたり、気の合った方と談話されたりできるようテーブルセットやソファを配置している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には机、椅子、ソファベッド、タンスが備え付けてある。大事な写真や置物等を飾って、安心して居心地よく生活していただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるようバリアフリーになっている。エレベーターがあり車椅子、シルバーカーの方も移動しやすく、自立した生活ができるよう工夫している。		